

平成 30 年7月豪雨から5年

警 防 課

令和5年7月10日、活発な梅雨前線の影響により、九州地方では大雨特別警報が発表され、複数の河川の氾濫、九州各地で土砂災害が発生しており、甚大な被害が発生しました。

本消防組合としても、緊急消防援助隊の要請があれば、枚方寝屋川消防組合緊急消防援助隊応援等実施計画に基づき、大阪府大隊として出動します。

梅雨末期には、今回の九州各地で発生した大雨と同様に大阪府内でも大雨による災害が発生する可能性がありますので、注意が必要です。

今年は、平成30年7月豪雨から5年の節目の年となります。過去の災害を風化させず、未来の災害に備えることが重要になっています。

1 災害について

平成30年7月6日に大雨特別警報が発令され、大雨特別警報の運用が開始以来最多となる計1府9県（福岡県、佐賀県、長崎県、岡山県、広島県、鳥取県、兵庫県、京都府、高知県、愛媛県）で発表されました。河川の氾濫、浸水害、土砂災害等が発生し死者237名、行方不明者8名、重軽傷者432名となり、平成最悪の水害となりました。

同年7月5日から8日までの4日間に、各地で線状降水帯が発生し、短時間の長期的かつ局地的な降水量の増大に影響を与えていたと考えられています。

（参考：気象庁 2018「平成30年7月豪雨」及び7月中旬以降の記録的な高温の特徴と要因について）

2 本消防組合の取り組みについて

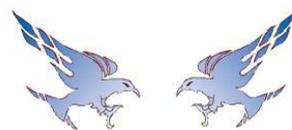
(1) 枚方寝屋川消防組合緊急消防援助隊応援等実施計画の策定

緊急消防援助隊については、平成15年6月消防組織法の改正（法制化）以降、全国で37回の出動実績（全国で年間約2回の出動状況）がある中で、本消防組合の隊が緊急消防援助隊として被災地に出動する際に応援等の計画が未策定であったこと、及び国の計画等が複雑化している中で、本消防組合としての整理が必要であったため策定しました。

(2) 土砂災害活動マニュアルの策定

近年の気候変動の影響による集中豪雨や大規模地震で誘発される土砂災害に対し、迅速、確実かつ的確に災害対応を行うために必要な事項をまとめ、現場活動の充実強化に資することを目的に策定しました。

土砂災害活動マニュアル



- (3) 緊急消防援助隊の応援に伴う訓練の実施
消防庁長官の求め又は指示による応援出動の措置を迅速かつ的確に行うため、応援活動を行う本消防組合の派遣初動体制を確立するために当該訓練を実施しました。



3 おわりに

平成 30 年 7 月豪雨は甚大な災害となり、緊急消防援助隊大阪府大隊 359 隊 1,341 人が派遣されました。（本消防組合から 14 隊 58 人）

毎年のように日本各地で発生する豪雨による災害は、台風シーズンになる前でも、管内で発生する可能性があることから、ハザードマップ等を活用し、両市の管内特性を把握するとともに、各種災害に備える必要があります。

緊急消防援助隊についても、いつ出動の指示が来ても迅速に派遣できるよう、今後も引き続き体制強化に努めていきます。



被災地の当時の状況